



04 新春座談会

**生産者・JA・市場が連携し、
JAやまがたのブランド力を
高めていこう！**

03 農業情報

12 旬の料理 青菜漬の目張り鮓とかき揚げ

青菜漬の目張り鮓と かき揚げ

海苔の代わりに青菜漬の葉を使う太巻き鮓。
もって菊と相まって色鮮やかな一品です。



●材料 4人前

青菜漬…1株
もって菊…1パック
卵…2個（塩少々を加えて溶く）
鮓飯…3合
桜海老…適量

甘酢（混ぜておく）
酢…大2、水…大5
砂糖…大2、塩…少々

天ぷら粉・揚げ油…適量



1 もって菊は、酢を入れた湯で茹で、甘酢に漬ける。甘酢漬は、巻き簾に棒状（直径1.5cm）に絞っておく。卵は薄焼き玉子にする。

2 棒状にしたもって菊の甘酢漬を、薄焼き玉子で巻く。青菜漬は芯をそいで、巻き簾に重ねて敷く。

ワンポイントアドバイス

青菜漬の塩分が強いので、醤油はつけずに食べましょう。芯をもっと細かく刻んで細巻き鮓の具にしても美味しいです。



佐藤貞次/「料亭の>村」料理長。山形県フグ講師。山形調理師専門学校非常勤講師。/「料亭の>村」は明治6年に創業。四季折々の料理と「おもてなしの心」で古き良き料亭としての伝統を守る老舗。TEL.023-641-0515、要予約。日曜・祝日定休。



3 青菜漬に鮓飯と、巻いた薄焼き玉子のをせる。巻き簾でまず具を合わせてから、巻き始めるとこぼれません。10分程置いてなじませてから、切り分ける。

4 残った青菜漬の芯は千切りし、粉をふってから、水で溶いた天ぷら粉と混ぜる。桜海老も同様に。ヘラの上で盛り合わせてから170℃の油で揚げる。

あとがき

十二支は、もともと中国で農業暦として使われていたそうです。たとえば、「子」は種まき、「丑」は発芽を意味しています。今年の干支である「申」は、成熟を意味しています。取材先で「最近では毎年異常気象だ」という話を聞きますが、今年は農産物がきちんと成熟して、多くの収穫を得られる年になれば良いと思います。

農政対策協議会

12月8日、当JA本店で農政対策協議会が開かれ、常勤役員や各地区の委員、職員ら約120名が参加しました。

●表彰

第23回県青協手作り看板コンクールで、52作品の中から楯山支部が優秀賞を受賞しました。

●協議事項

(1) TPPへの対応

11月、当JAの常勤役員が管内の市町長へ「TPP交渉の大筋合意を受けての緊急要請」を手渡したことを報告し、今後も県民各層と連携して、山形県の農業と食を守るための運動を継続することを確認しました。

(2) 水田農業対策について

・当JA管内*における平成27年度の転作達成率は105.5%でした。*山形市の面積換算には、JA山形市管内の面積も含まれます。
・11月30日に農林水産省が発表した平成28年産米の生産数量目標について報告されました。

	平成27年産米 生産数量目標	平成28年産米 生産数量目標	平成28年産米 自主的取組参考値
全 国	7,510,000t	7,430,000t	7,350,000t
山形県	344,500t	340,830t	337,160t

(3) 太平物産(株) 製造肥料に係る品質問題の対応

組合員の皆様へ多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫びするとともに、補償等について今後も粘り強く交渉していくことを報告しました。



農業情報

Agricultural information

■ 各営農センター

1月中旬～

・平成28年農作物病害虫防除暦説明会

1月下旬～2月上旬

・各果樹剪定講習会

■ 中央営農センター

1月中旬

・各野菜部会反省検討会

2月中旬

・婦人交流会

■ 西部営農センター

2月中旬

・園芸組織各支部総会

・水田作物総合検討会

■ 南部営農センター

1月中旬

・花卉総合講習会、反省検討会

1月下旬

・税務講習会

2月上旬

・果樹部会総合反省会

■ 北部営農センター

2月上旬

・果樹部会総合反省会

2月中旬

・北部園芸組織各支部役員会、総会



平成26年から一般作付けが始まった「山形95号」について、JA全農山形が県内から集荷して販売する際の愛称が「ひだまり」に決まりました。山形95号は中山間地域の栽培に適した山形県オリジナルの品種で、当JA管内でも生産されています。また、地域や生産者が自由に愛称をつけることができます。12月13日、山形市のスーパーで「ひだまり」の試食販売会が行われ、多くの人が新しい品種の味を楽しんでいました。



JA全農山形が販売する山形95号「ひだまり」の愛称でデビュー

あけましておめでとうございます。組合員の皆様並びに地域の皆様におかれましては、新年を穏やかにお過ごしのことと拝察し、心よりお慶び申し上げます。また、常日頃より農協事業に対する格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、あらためて感謝申し上げます。

平成二十七年は、改正農協法の成立やTPP交渉の大筋合意など、農業全体に大きな影響を与える出来事がありました。農業を取り巻く環境が厳しさを増す中、第二十七回JA全国大会では、JAグループの新しいキヤッチフレーズが「耕そう、大地と地域のみらい。」に決まりました。これには「農業者の所得向上」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を通じて、組合員や地域の皆様の幸せとともに追求していく、という強い意志が込められています。当組合もJAの使命を果たすため、積極的な自己改革に取り組んでまいります。

当組合では、生産コスト削減と農産物の販売力強化を中心とした自己改革を進めています。昨年は、鉄コーティング用の機械を導入し、コメの直播栽培を推進しました。また、製造工程の見直しにより価格を抑えた「パワーたいひ」を新しく販売しました。組合員の皆様の営農を支えるため、今後も生産コスト削減への取り組みを徹底します。

農産物の販売力強化については、市場でのシェアを拡大し有利販売につなげるため、一元販売と市場の集約をしております。また、新鮮

な農産物が豊富に揃うおいしさ直売所には、たくさんの方に来店いただいております。今年、おいしさ直売所南館店は駐車場と売り場面積を拡大してリニューアルオープンいたします。これからも利便性を高め、地域の皆様からより愛される直売所を目指します。

支店統合再編は、地域の皆様から多大なるご協力をいただきながら進めております。今年は第6次中期経営刷新計画、新しい農業振興計画の始まりの年です。経営の健全性確保と地域農業の活性化に向け、より良い方向へ進めるよう計画を策定いたします。

当組合は今年、設立二十周年目を迎えます。「組合員の目線に立つ」ことを常に忘れず、記念すべき年に向け、役職員一丸となって協同の成果を実現できるよう取り組んでまいります。今後とも多大なるご協力をお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

平成二十八年 元旦



ごあいさつ

山形農業協同組合

代表理事組合長

板垣 平治郎



「新春座談会」

生産者・JA・市場が連携し、 JAやまがたのブランド力を 高めていこう！

新年号恒例の「新春対談」。今回は板垣平治郎代表理事組合長と、JAやまがた青果物販売協力会会長の宮本初義氏（金港青果株式会社代表取締役会長兼社長）との対談です。生産者・JA・市場の連携や今後の農業について、熱く語っていただきました。



——今回はJAやまがたの青果物をどう販売していけば、生産者・JA・市場の収益増につながるのか、さまざまな視点から意見交換をしていただけだと思います。

板垣 宮本会長、本日は年末のお忙しい時に、遠路山形までおいでいただきありがとうございます。また、今年からJAやまがた青果物販売協力会の会長をお引き受けいただき、心より感謝申し上げます。

宮本 今年4月に協会の会長を仰せつかり、これまで約9ヶ月、大きな責任を感じながらやって参りました。幸いJAやまがたの青果物につきましては、野菜、果物とも総じて好結果が出て、なんとか責任を果たせたかなと安堵しているところです。

板垣 今年は春先の霜害で、サクランボの生産量が大きく落ち込みました。深刻な被害に遭った組合員もあり、心が痛みました。それにともない出荷量は減りましたが、宮本会長はじめ、市場関係者の方には高値で販売をしていただき、本当にありがたく思っています。

宮本 私どもより販売店の皆さん、そ

して消費者の皆さんに、JAやまがたの青果物が評価された結果です。良質の青果物を切れ目なく出荷していただいたおかげで、JAやまがたへの信頼が高まり、それが高値につながったのだと思います。来年以降もぜひたくさんのお荷をお願いいたします。

板垣 当JAとしても、春のサクランボから正月の干し柿まで切れ目なく出荷して、市場との結びつきを深めていきたいと考えています。そのため、これまで全国40以上の市場に出荷していたのを、野菜、果実を含め29市場に絞って、一つの市場に出荷する量を増やしました。やはりある程度の出荷量がないと、市場でのポジションを確保できないので、組合員の利益を少しでも確保するために踏み切りました。

宮本 まとまった量を通年出荷していただけるのは市場としてありがたいですし、価格形成においてJAにも大きなプラスになると思います。通年出荷されるということは、市場にJAやまがたコーナーがあるようなもので、JAやまがたの認知度が高まり、信頼につながります。それが将来的にブランドになっていくのだと

出荷だけでなく、
集荷の合理化を図ることも大事。
（板垣）

思います。

板垣 今度は集荷についても、体制を整えていきたいと考えています。当JAでは4つの営農センターがそれぞれ集荷を行っているのですが、合理的な集荷体制をつくるには、集約を図らなければなりません。組合員の皆様には、いろいろな機会を通じて必要性を申し上げ、ご理解を得たいと思っています。

宮本 全国どここの産地も、後継者不足などで生産量が減り、それに伴って集荷施設を集約せざるを得ない状況になっていきます。生産者からすれば、集荷場まで遠くなるので不便ですが、コストや、価格形成への影響を考えると集約はやむを得ないことだと思います。

板垣 ただ生産者の高齢化が進む中で、集荷場が遠くなると出荷できなくなる可能性もあります。それで、当JAが組合員の所へ出向いて集荷す

る方法も考えているところです。

宮本 そうですね。そういう方法もあると思います。あるイチゴ産地でも、JAが生産者の庭先を回って集荷し、パッケージはJAでやっているところがあります。規格を簡略化して、選別作業をしやすくするのも方法の一つです。

——JAを取り巻く情勢は厳しいものがあり、いろいろなことがありますが、TPPという大きな不安要素もあります。

板垣 TPPについて、組合員は不安

通年出荷していただくことで、JAやまがたの
認知度が高まり、信頼につながります。
（宮本）





板垣平治郎

Itagaki Heijirou 山形市蔵王生まれ。蔵王農業協同組合理事、山形農業協同組合理事などを経て、平成24年に山形農業協同組合 代表理事組合長に就任。ブドウ栽培のキャリアは40年以上。



TPPにビクビクする必要はない。
消費者は必ず国産に戻ってくれる。(板垣)

を感じています。でも私は会議などでも「あまりビクビクするな」と言っているんです。といいますのは、これまでも農業にとって懸念されることはたくさんありました。例えばサクランボの自由化の時。あの時、山形県のサクランボ関係者はとても心配しました。たしかに影響も出しましたが、数年後には完全に復活しました。国産果物と外国産果物は、根本から違うと思っているんです。国産果物は、秀・優・良とかL・Lとか細かい等級があり、それに対して外国産果物は、キ口単位で値段が決まるのが主流です。日本は品質をすごく大切にします。だから外国産は怖くないんだと、常々言っ

ているわけです。関税撤廃が実行された時に一度は影響が出るかもしれませんが。でも消費者は、必ず国産果物に戻ってくれると考えています。
宮本 私も同感です。青果物については、他の国にない高品質のものを日本の生産者は作っています。臆することはないと思いますよ。
板垣 会長にそういつていただく信心強い限りです。自分たちの作る物に自信を持って、前向きにがんばろうと、組合員の皆様にはこれからも申し上げていきたいと思っています。
—— 宮本会長にお伺いしたいのですが、これからの青果物販売で、ポイントになることはありますか？

宮本 販売時に美味しさや安全安心をアピールするのは当然として、今後は「機能性」というのもあると思います。4月から生鮮食品も機能性表示ができるようになり、静岡県の子三ヶ日みかんが「骨の健康に役立つ」ことを表示してニュースになりました。今後は機能性をアピールすることで、新しい消費者層を開拓できる可能性が有ります。販売増や価格の安定にもつながると思います。

板垣 健康にいいとか美容にいいことをアピールすれば、興味を持ってくれる人は増えるかも知れませんが。たしかな根拠が必要でしょうから簡単ではないと思いますが、当JAでも検討してみたいと思います。
—— 今回の対談では、当JAと市場との連携も大きなテーマかと思いますが、今後という連携を考えておられますか。
板垣 連携といえばまず情報交換で

すが、これは当JAの販売担当者や市場の担当者間で、かなり緊密な情報交換がされています。ただ農産物を送るだけでなく、市場からのいろいろな要望に応じて発送することもあります。

宮本 そうですね、従来は組合員の皆様で作ったものをJAが取りまとめ、市場はそれに対応して販売してきました。しかし現在は、「消費者が求めるものをいかに出荷するか」が大事になってきています。ですから市

場が消費動向をとらえてJAに伝え、それを生産現場で活かすことがこれから重要になっていくと思います。販売においては、いまは量販店が大きな力を持っています。量販店の販売計画は通常2〜3ヶ月前に決定しますが、早いところでは半年前に計画を立てるところもあります。そういう量販店の販売計画に対応できるように、市場とJAとは連携を図っていかなければなりません。いまの時代、情報を制する者が商売を制すると言っても過言

ではありません。
板垣 昔は、JAと市場との間の情報交換でしたが、いまは同じ市場からくる情報にしても、どんなパッケージが売れやすいかなど、小売店や消費者からの情報も入ってくるようになりました。これからも当JAと市場がお互いビジネスパートナーとして密接な連携を図りながら、情報交換や意見交換を絶えず行っていきたいと思っています。さらに通年出荷でJAやまがたのブランド力を高めていくこと。その

ためには生産者・JA・市場の三者が、生産から販売まで一枚岩になってやっていくことが大事かと思っています。
宮本 2015年の流行語じゃないですけど、トリプルスリーでやっていかないとダメということでしょう(笑)。—— うまく締めていただきましたので、これで対談を終了したいと思います。本日はありがとうございました。

消費動向をいち早くJAに伝え、販売につながることも
市場の重要な役割です。(宮本)



宮本初義

Miyamoto Hatsuyoshi 愛媛県西宇和郡伊方町生まれ。昭和42年に金港青果株式会社に入社し、果実部に配属。その後キャリアを重ね、平成22年に同社代表取締役会長兼社長に就任。平成27年5月から、JAやまがた青果物販売協力会会長を務める。



理事会だより

以下の内容について、報告・協議されました。

第11回理事会（11月27日開催）

●報告事項

「監事会」

1. 平成27年度上期定期監査の意見書について

「経営管理部」

1. 組合員（出資金）加入調書
2. 旧南沼原支店の施設解体
3. おいしさ直売所南館店新築工事入札結果
4. 青柳第4実行組合（楯山支店管内）の千歳支店編入に係る経緯と事務手続き
5. CCS3次認定
6. 福祉センター青田介護利用者数推移

「資産サポート部」

1. 平成27年10月末事業実績

「営農経済部」

1. 青果物販売状況
2. 平成27年度米集荷状況
3. 二市二町へのTPP交渉の大筋合意を受けての緊急要請
4. 太平物産（株）製造肥料に係る品質問題の対応

「その他」

1. 平成27年10月末事業実績

●協議事項

- 第1号議案、高額貸出金及び貸出条件変更第2号議案、系統債権管理回収機構（株）への債権売却

DIRECTOR'S OPINION 2016

役員より VOL.10



理事
熊谷 與志巳

ピンチはチャンス

「安心して下さい、はいてますよ。」これは皆さんもご存知のように、昨年の流行語大賞トップテンに選ばれた作品のひとつです。何故この言葉が世間に幅広く浸透したか考えると、今日の国内外の政治情勢と彼が発するハラハラ、ドキドキ感、それをいい意味で裏切る想定外の答えにあるのではないのでしょうか。

今日、JA、組合員が置かれている状況はどうでしょうか。世間一般の方々からは、厳しい環境のため「農業の衰退」というイメージをもたれているかと思います。しかし私たちはそのイメージを打破すべく互いに英知を出し合い共生し、将来性のある農業、儲かる農業にしていかなければなりません。パンドラの箱が開かれた今、その中に眠るお宝を見出し、磨きをかけ素晴らしいものに変えていく必要があります。飛躍する千載一遇のチャンスが訪れたと思った方が良いのではないのでしょうか。最後に「安心して下さい。JAやまがたはやりまします。進化します。」

平成27年分税務申告相談会

本店、各支店で税理士を招いて税務申告（所得・譲渡税・消費税等）の相談会を行います。

開催日	会場	対象支店
2月 9日（火）	東金井支店	東金井・長崎
2月10日（水）		東金井・豊田
2月12日（金）		山辺・作谷沢
2月15日（月）	本店	千歳
2月16日（火）		鈴川
2月17日（水）		宮浦・南館
2月18日（木）		西部・南金井・本沢・成沢・蔵王
2月19日（金）	天神支店	滝山・さくら
2月22日（月）		天神
2月23日（火）		楯山・高瀬
2月24日（水）	宮川支店	上山・宮川・西郷・中川



12月9日、三河春彦山形税務署長が当JAを訪れました。



※会場については、パソコン（e-Tax 対応）設置の関係上、会場を集約しての開催となります。

お問い合わせ 資産サポート部
TEL.023-624-8260

『確定申告書等作成コーナー』が便利です。

国税庁HP内「確定申告書等作成コーナー」では、画面の案内に従って金額等を入力することにより、確定申告書等を作成できます。

- 作成した確定申告書等は印刷して郵送等により提出できます。また、e-Taxで送信することもできます。
- 作成中の申告書等データを保存し、その保存したデータを読み込んで作業を再開することができます。
- 作成した申告書等データを保存しておけば、翌年の申告時に読み込んで活用できます。

山形市新春農業講演会

演題 「土地利用型農業による6次産業化」

酪農と加工販売・稲作が連携し、新たなビジネスモデルを構築。グループ年間で約23万人の来客数を誇る！

講師／（有）フジタファーム（新潟県新潟市）
代表取締役 藤田 毅 氏

- 日時 平成28年1月26日（火）14:00～16:00
- 場所 山形市農業研修センター（山形市東古館145）

お問い合わせ
山形市農政課 TEL.023-641-1212（内線429）
（一社）山形市農業振興公社 TEL.023-644-1622

入場無料
申し込み不要

直接会場に
お越し下さい。

組合員資格の確認について

組合員資格に変動があった場合は、当JAの定款に基づき資格変更の手続きを行いますので、最寄の本店、支店へお申し出ください。

お問い合わせ
経営管理部 総務課
TEL.023-641-3121

2016「仙台公演」

にっぽん演歌の夢祭り バスツアー

出演者（50音順）：石川さゆり、五木ひろし、大石まどか、北山たけし、コロッセ、福田こうへい、藤あや子、前川清、八代亜紀、山内恵介

- 旅行日程 平成28年2月26日（金）～27日（土）
- 旅行代金 おひとり様 29,800円（税込）

お問い合わせ 金融部旅行センター TEL.023-624-8259



わんぱく 農業学校

10月24日は 1組2班 新藤 綾那

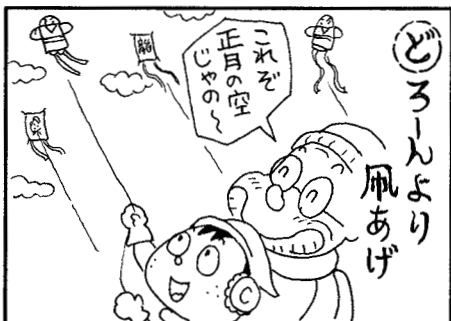
カントリーエレベーターは、お米を5種類もあつっているし、量もたくさんあつてすごかったです。お米が出荷されるまでの流れもよくわかりました。畑で、サトイモとネギは、前に見たときに比べてけっこう大きくなっていました。収穫するときもけっこう力がいっただけ、楽しくできてよかったです。

「先生より」カントリーエレベーターがどんなお仕事をしているところなのか、知ってもらえて良かったです！サトイモとネギの収穫は力仕事でしたが、たくさんとれて、みんな笑顔になっていたので先生もうれしかったです。

（楯山支店 高嶋 美咲）

「第7回」西郷地区
カントリーエレベーター見学・サトイモとネギの収穫

西郷地区カントリーエレベーターで、刈った稲がどのようにお米になるのか学びました。5月に植えたサトイモとネギも、たくさん収穫しました。



読者の広場投稿募集

記入例を参考に郵便はがきでご応募下さい。
締め切りは、1月20日(当日消印有効)です。
●プレゼント／「パズル」の正解者の中から抽選で3名の方に図書カード(1,000円分)をプレゼント。当選者は発送をもってかえさせていただきます。
●お問い合わせ／JAやまがた広報係
TEL.023-624-8265 FAX.023-631-4714
kikakukanri@jayamagata.or.jp

52	990-8535
JAやまがた 広報係 行	山形市旅籠町 一丁目12 35

●先月号のパズルの答え「カンツバキ」

読者の広場

●昨年体調をくずし、このままでは天国に行けないと「終活」をして身の回りを整理しました。憧れの「ポタジエ」を作ったり、生け花を学んだりして、残りの人生を楽しみたいです。(山形市 Tさん) ●自分の考えや今の状況を整理して、これからの人生をより良く生きるために「終活」をすることは、とても有意義なことだと思います。

●今年は、パソコンを覚えたいです。(山辺町 Hさん) ●私は仕事で日々パソコンを使いますが、色々な機能を使いこなせればもっと効率的に作業できるだろうと思います。

●12月号の「大根のピリ辛漬け」、レシピ参考にしています。あと、2016年の「JAやまがたカレンダー」、ありがとうございました。(山形市 Sさん) ●カレンダー、農作業の時期が記載されていることに加えて、年号の昭和表記も実は人気だそうです。月の満ち欠けを見るのに役立っている組合員の方もいらっしゃいました。

みなさんの「今年挑戦したいこと」

- 野菜づくりがうまくなりたい。(山形市 Iさん)
- 長距離の散歩をしたい。(山形市 Iさん)
- 山形まるごとマラソンに挑戦！(中山町 Mさん)
- 毎日、散歩を続けたい。(山辺町 Mさん)
- スマホを使いこなしたい。(山形市 Sさん)
- 体力づくりをしたい。(山形市 Tさん)

お葉書ありがとうございました！



今月の表紙

齋藤道成さん／山上市金谷／齋藤さんは平成26年に就農し、ストック、中玉トマトなどを生産しています。今年の抱負「楽しい農業を目指す」を胸に、新しくトルコキキョウにも挑戦する予定です。(奥様の恵さん、芽叶ちゃん、なづ那ちゃんと一緒に)



四季の生け花
華道家元池坊 小山雅子

1月の花／鈴木柚月 作

○花材 南天／水仙／シンビジウム
リユーコリネ／カラテア／メリーアスパラ
シキミア／ブルースター／ピンボン菊

協力：(株)出羽園

PUZZLE
パズル?
頭の体操
出題●ニコリ

3名
図書カード
1,000円分
プレゼント!

↓タテのカギ
1 物事が起こる気配 春のこと
2 絵や文字を修正したり書き足したりすること
3 鹿兒島の南端にある島
4 煙草と一緒に持ち歩くことの多い道具
5 配偶者の妹、あるいは弟の妻
6 東大寺や 大社がある奈良公園
7 一般的には白みそより辛め
8 生まれ一月の赤ちゃんを連れて、神社へ に行きました
9 薬の がすくに表れた
10 チョコレートを溶かすには、直火ではなく〜
11 直火ではなく〜
12 直火ではなく〜
13 直火ではなく〜
14 直火ではなく〜
15 直火ではなく〜

→ヨコのカギ
1 1月は睦月、2月は――
2 結婚して――を持ちました
3 酒を温めること
4 疲れたので――しよう
5 電子メールを数えるときにも使う言葉
6 ハイの反対語
7 日本初の国産磁器 積み出し港だった 佐賀県の地名を冠しています
8 風呂を上がるときに浴びます
9 自動車の燃料の一つ
10 パレンティンデーに伝える人もいます
11 古い杉の木などではとても太くなります
12 節分にまく物



JAやまがたホームページでも
随時トピックスを更新中!

JAやまがた 検索

JA NEWS TOPICS

管内の主な出来事をご紹介します



南部営農センターで 干し柿の共励会を開催

12月11日、南部営農センター果樹部会干し柿部会は「紅柿」と「蔵王つるし」の共励会を開き、26点が出品されました。

紅柿の部
最優秀賞 秋葉 栄史
優秀賞 山口 康史
優賞 舟越 幸橘
中川 正司

蔵王つるしの部
最優秀賞 秋葉長一郎
優秀賞 鈴木 幸夫
優賞 山口 正人
大澤 裕司



県内JA初の「請求」に特化した 共済窓口コンクールを開催

12月4日、当JA本店で、共済部による「生命・建更請求受付窓口コンクール」が開かれました。このコンクールは共済窓口の職員が入院共済金や自然災害共済金などの請求を受けた場合に、適切に対応できるかを審査するもので、県内JAでは初の開催となります。共済窓口担当者21名が参加し、当JAとJA共済連山形の職員が審査・採点を行いました。その結果、最優秀賞に西郷支店の鏡希さんと、さくら支店の会田勝也さんが選ばれました。



TPPに関する学習会 約400名が参加

12月17日、山形ビッグウィングで「TPPから食と暮らしのちを守る学習会」が開かれました。基調講演では、東京大学大学院の鈴木宣弘教授が「長期的・総合的な利益と費用を考慮せずに、食料などの国内生産が縮小しても貿易自由化を推進すべきとする考え方は、見直す必要がある」とTPP太極合意への懸念を示しました。その後山形県生協連の廣部公子さんが「国会決議との整合性や、暮らしへの影響の検証を求める運動を継続しよう」と申し合わせました。



認知症の男性を保護した 中川支店長に感謝状

12月7日、上山警察署は、認知症の高齢者を保護したとして、中川支店の前田利美支店長に感謝状を贈りました。前田支店長は11月10日、上市市内の国道を車で走行中、高齢の男性が道路脇を歩いているのに気付く、Uターンして男性に声をかけました。しかし、返答がはっきりしなかったため、上山警察署へ共に向かいました。その男性には、家族から捜索願が出されていたそうです。前田支店長は「大型の車が多く通る道なので、男性が事故に遭わなくてよかった」と話していました。

